

小規模企業景気動向調査

[平成16年3月期調査]

回復基調は堅持するも、本格回復への足取り重い 小規模景況

平成16年4月16日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象:全国約300商工会の経営指導員

調査時点:平成16年3月末

調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体>

3月の小規模企業景気動向調査によると、産業全体のD.I.(景気動向指数・前年同月比)は、売上額がマイナス27.0(前月比プラス3.5ポイント)、採算がマイナス31.1(同プラス1.4ポイント)、資金繰りがマイナス30.4(同プラス0.4ポイント)、業況がマイナス35.0(同マイナス1.1ポイント)となった。業種別では、卒業、入学と言った季節要因から小売業、サービス業が改善の動きを示すものの、建設業は年度末の公共事業の減少、製造業が材料仕入単価上昇に苦しむとする回答が多く、全体の業況が悪化した。また、新年度に期待する声が多い反面、年度末を契機に廃業を選択する会員の声が目立つ。景気回復基調が叫ばれる中、先月に引き続き、商工会地域では都市部との温度差を感じるとする回答が多く、依然として、小規模企業を取り巻く経営環境は厳しい。本格回復への足取りは重く、引き続き足踏み状態と言える。

<製造業>

製造業については、売上額がマイナス10.5(前月比マイナス0.6ポイント)、採算がマイナス19.8(同プラス3.0ポイント)、資金繰りがマイナス22.2(同マイナス2.5ポイント)、業況がマイナス18.6(同マイナス2.8ポイント)となった。機械金属、自動車部品、電子部品の一部地域で好調という回答もあるが、繊維は中国製品との競争で経営環境が厳しい。金属、鋼材などでは、材料高騰といった回答が多く、売上、資金繰り、業況が悪化した。

<建設業>

建設業については、完成工事額がマイナス41.0(前月比プラス4.2ポイント)、採算がマイナス45.4(同マイナス3.7ポイント)、資金繰りがマイナス43.2(同マイナス0.6ポイント)、業況がマイナス50.4(同マイナス5.1ポイント)となった。年度末の公共工事の駆け込み需要は改善よりも悪化に回答が多い。一般・公共を問わず工事が減少していることに加え、受注単価の減少、資材価格の上昇により採算、資金繰り、業況が悪化した。

<小売業>

小売業については、売上額がマイナス32.9(前月比プラス3.7ポイント)、採算がマイナス33.9(同プラス2.2ポイント)、資金繰りがマイナス33.3(同プラス1.6ポイント)、業況がマイナス39.2(同プラス0.7ポイント)となった。引き続き、大型店、スーパー、CVSとの競争激化という回答が目立つ。しかし、卒業、入学、新学期、転勤といった季節要因により耐久消費財の売上増加が貢献し、全ての項目が改善した。

<サービス業>

サービス業については、売上額がマイナス23.4(前月比プラス6.9ポイント)、採算がマイナス25.3(同プラス4.1ポイント)、資金繰りがマイナス22.9(同プラス3.0ポイント)、業況がマイナス31.6(同プラス2.9ポイント)となった。理容業や洗濯業は、引き続き、利用サイクルの長期化や大型店等の進出による競争激化の回答が目立つものの、行楽シーズンを迎えた観光地、及び、新年度を迎える洗濯業を中心に全ての項目が改善した。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比
売上額	30.5	27.0	3.5	9.9	10.5	0.6	45.2	41.0	4.2
採算	32.5	31.1	1.4	22.8	19.8	3.0	41.7	45.4	3.7
資金繰り	30.8	30.4	0.4	19.7	22.2	2.5	42.6	43.2	0.6
業況	33.9	35.0	1.1	15.8	18.6	2.8	45.3	50.4	5.1

業種	小売業			サービス業		
	2月	3月	前月比	2月	3月	前月比
売上額	36.6	32.9	3.7	30.3	23.4	6.9
採算	36.1	33.9	2.2	29.4	25.3	4.1
資金繰り	34.9	33.3	1.6	25.9	22.9	3.0
業況	39.9	39.2	0.7	34.5	31.6	2.9

注) D.I.(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

問い合わせ先:振興部 振興課

長岡 力 TEL:03-3503-1256(直通)

E-mail: ml-sinkou@shokokai.or.jp